

新年のごあいさつ

大阪市長 橋下 徹

あけましておめでとうございます。

お元気で新年を迎えられたことと、心からお喜び申し上げます。

市長として初めての新年です。市民の皆様から寄せられた期待の大きさ、使命と責任の重さを改めて実感しています。

今年はいよいよ、大阪が本当の意味で元気になるスタートの年です。対症療法でなく、行政の仕組みから直す、体質から直す、そして次の世代に素晴らしい大阪を渡していける、そんな大阪再生のスタートの年です。

まず、行政の無駄をなくして、市民のための行政につくり変えます。

そのために、今まで府と市がお互いに知らんぷりをして、あるいは知ろうともしないで、同じエリアでバラバラのことをやっていたという、市民府民無視のやり方を、府市統合本部を設置して徹底的に見直します。

府市統合本部の見直し作業でめざすのは、府と市が一体となって、大阪を世界に通用する大都市にしていくための仕組みづくりです。市民の安心や安全につながる改革です。仕組みづくりを通じて、雇用をつくり出し経済を活性化させる施策にも取り組みます。

例えば、大阪府・市立の8つの病院を一体で経営することを検討します。こうすることで医師が確保しやすくなりますし、救急医療や周産期医療などの政策医療が強化されます。

大阪市消防局と府内の消防組織を統合した「大阪消防庁」の設置に向けた検討も指示しました。西日本の防災拠点になるような強力な消防体制をつくって、大規模災害にも万全を期します。

大阪市の産業創造館と大阪府の大阪産業振興機構を統合して情報を共有、中小企業の支援を強化します。

その他、地下鉄の値下げと民営化も検討を指示しました。待機児童解消にも知恵を絞ります。

区については、4月から区民のために働こうという意欲のある区長を公募で起用します。そして、財源を渡し権限を強化することで、各区が輝く特色ある施策を実行できるようにします。

教育行政も、形がい化し治外法権化した教育委員会制度を見直し、住民の意思が反映できる仕組みを構築します。

市民のため、大阪のため、関西のためになる真の改革を、今までのしがらみや市役所の都合に左右されず、徹底的にスピード感を持って進めていきます。

その先にあるのは、大阪都です。世界に通用する、日本を代表する大都市大阪をつくるのです。

めざす大阪の将来像は、ハイエンド（高付加価値創造）都市であり、アジア・日本各地を結び、集積・交流・分配機能を発揮する中継都市です。

中小企業の高い技術力、アジアに開けた地の利、豊かな観光資源といった大阪の潜在能力を十二分に活かすため、ロスのない強力な施策を打てる体制をつくりまします。

より良い住民サービスを実現するためには、公務員に対する市民の信頼を高め、市役所を、市民のための組織に変えていく必要があります。公務員改革を断行します。

市職員数の削減や給与カット等厳しい財政改革を行うに当たり、自ら改革に取り組む姿勢を示すために、市長の報酬を3割削減し、退職金を5割削減します。

これまでの公務員制度では、身分保障の名の下に、一度公務員になれば、成果を上げなくても年を重ねると昇給するという、年功序列型の人事がまかり通ってきました。

しかし時代は変わっています。能力とやる気のある職員にはその労に報いる必要がありますし、一方そうでない職員を市民の税金で養うことはできません。また、民間で行うことができ、必ずしも公務員がおこなう必要がない現業部門は民間に開放するべきです。

天下りについては、原則として全面的に禁止します。

外郭団体は、天下りの温床となっており、民間で行うことができる事業について民間で行うべきであることから、外郭団体については解散、民営化、広域化等により、原則全廃します。

補助金・交付金についても見直します。

制度の見直しにあたっては、議会ときちっと議論していきます。大阪を再生させたいという願いは、私も議会も市民の皆さんも全く同じだと思います。必ず建設的な答えが見つげ出せると確信しています。

今年は、大阪市の行政を市民の手に取り戻す歴史的な年になります。

そして、大阪が生まれ変わり再生する、そのスタートの年にもなります。

市民の皆さんのご支援をぜひよろしくお願いいたします。